



2023
10 月号
第401号

教区だより

真宗大谷派京都教区 教化広報誌



今月の「ことば」

地獄は

楽を求める私が
つくりだす

今月の「ことば」は教区駐在教導が担当しています

CONTENTS

2・3面	4面	5面	6面	7面
連載 第10回 真宗教団の中の 女性たち みよし えつこ 見義 悦子氏	今、この時に、 親鸞聖人に会う 近江第25西組 たなか まさあき 田中 正章氏	特集 慶讃だより 湖東地区	特集 慶讃だより 石西組	教務所からのお知らせ イマダカラ 8面 今月の行事予定

京都教区内の風景をお届けしています。『教区だより』では表紙写真の募集を行っております。詳しくは教務所（教区駐在教導）までお気軽にお問い合わせください。



(富山教区 正覺寺 副住職)

第十回 女性室の取り組み①

先月号でも記したが、今なお私の中でくすぶっていることがある。それは坊守制度に関する議論の期間（一九九七～二〇〇〇年）を生かせなかったことである。せっかく当局がこれまでの男性教団を女性と共に担う教団へと方向を転換することに立った時、これまでの男性主体の教団の中で作られた坊守制度では応えきれないことに気づいた。そこから、

- 1、門徒・同朋に開かれた聞法道場としての寺院運営をめざして。

- 2、男女両性で形づくる教団をめざして

という指針をもって、さらに議論しようと思起されたことが、立ち消えの状態となってい

ることである。この二つの指針の根底には「男女両性で形づくる教団」に向けてという明らかな方向があったはずである。教務部が組織部に統合され、女性室の所管が解放運動推進本部へと移行しても、その議論は引き継がれるべきであった。指針1と指針2の協議は常にその内容を情報交換し合い、前に進んでいくことが望まれた。そして結果として「門徒・同朋に開かれた聞法道場」として寺院が再生していく道が開かれるのではなかったか。あらためて今からでも協議の機会が欲しいと痛切に思っている。次に女性室の取り組みについて記したい。

「女性の宗門活動に関する委員会」答申の中で「女性参画推進条例」の必要性や「女性問題委員会」「中央女性会議」「教区女性会議」の設置を規定するように求められている。そこから「女性室」が設置された。

女性室では年一回の「女性会議」を重要目標として位置づけた（資料一・四）。それは教団に直接声をとどける場がない女性たちが日頃、生活を通して感じていることや要望などを自由に議論し合う場となることを願ったことである。全教区に向けて参加者を募集し参加にあたっては、組織の代表者（肩書き）

としてではなく、一人の個人として参加することを願った。そこで出された意見や要望を女性室として教団に届けることが女性室の存在意義として受け止めていたからである。

しかし歩み出してみると、やはり男性教団の壁は厚く、女性たちの声を通ることはなかなか難しかった。スタッフは逆にその有り様をエネルギーとして、どこまでも声を聞き、教団へ提起し続けたいと思ってきた。

初回～第三回までは喫緊の課題である「坊守制度」の問題が中心テーマとなり、多くの女性・男性たちが集まり活発な議論がなされた。その後の第五回に樋口恵子氏（東京家政大学名誉教授）を迎え「東京都男女平等参画条例」に聞くとして、一九九九年に施行された「男女共同参画社会基本法」や、地方行政の取り組みと課題について学び、教団の方向性について協議したことが忘れられない。氏は東京都の条例策定に関わり「共同参画」となってしまったが、本当の願いは「平等参画」であったと語られた。「男女平等参画」の意義を話され、女性室活動に大切な視点をいただいた。女性室は一貫して「男女平等参画」と表現し

続けている。「男女平等参画」とは、単にこれまでの男性主導型の教団のあり方にどう女性に参加するのかわかるということではなく、宗門に関わる一人ひとりが性別による固定的な役割分担を超えて、対等な立場において宗門の活動に参画し、そこから御同朋・御同行として真に平等なる関係を教団や今日の社会に回復していきたいという願いからである。社会が「共同参画」であつても教団は「平等参画」としてその大切さを社会に向けて発信することが真宗教団の大事な役目ではないかと感じる。

解放運動推進本部女性室となつてからは、「真宗と人権」をテーマとした。それは、性差別の問題を問う中で使われる「人権」という言葉に対して、「人権」とは西洋の思想であつて真宗の教えにそぐわないとして、性差別の問題から目を背けてしまう現状が多々あつたことによる。近代以降の女性教化の歴史や人権思想と真宗教学、『御文』の「女人」と「五障三従」の問題など、さまざまな視点を通して、社会における女性解放運動から問われる真宗教団の課題を確認し、共有を図る方向で開催した。又、第十四回以降は、これまでの

役割分担の固定化のもと、女性も男性もお互いもたれ合いを是としてきたことによつて「存在の尊厳」―「一人」の尊厳ということを見失つてきたのではなかったかという問題意識から、テーマを「一人に立つ」とした。「現代を生きる女性」や「戦争とジェンダー」など現在の社会問題を通して、女性と男性のあり方を考えてきた。第十六回女性会議では、本山御影堂での『御文』の拝読に関して『御文』における「女人」の表現に見られる差別性について参加者一同から検討を求める要望書が提出された(資料一一九)。女性室から出ている『あいあう』にその都度、内容が載つているので、女性室公式ホームページ「あいあうNET」を読んでいただけたらと思う。

あいあう NET



※資料は『女性史に学ぶ学習資料集』『真宗大谷派解放運動推進本部女性室編』より抜粋

公開講演会開催のお知らせ

十一月八日(水)に「真宗教団の中の女性たち」の公開講演会を開催します。詳しくは本紙七頁か、教区ホームページをご確認ください。



第十六回女性会議で提出された要望書

解放運動推進本部長 木越 涉様

要望書

第16回女性会議における貴殿の開会式本部長挨拶のなかで、『仏説観無量寿経』の「是施陀羅」について、それを読まれると痛みを感じているという部落解放同盟広島県連の小森龍邦氏の提起を受けて「部落差別問題等に関する教学委員会」が開催され、近々報告書が提出されるということをお聞きしました。

つきましては、回を重ねる女性会議において、『御文』で読まれる「五障三従」や「女人」の文言について私たちは痛みを感じていることを常に提起してきました。その痛みの重さは同じです。是非、この問題について信仰の課題として取り組む委員会を、早急に立ち上げてくださることを切望いたします。なお、委員会の構成に半数の女性を選出いただくことを申し添えます。

二〇一六年五月二〇日

第16回女性会議 参加者一同

※『女性史に学ぶ学習資料集』P189

今、この時に、 親鸞聖人に遇う



「おかげさま」で！

近江第二十五西組誓行寺

教区門徒会長

田中 正章
たなか まさあき

静まりかえった御影堂・阿弥陀堂は、数カ月前に連日満堂となりました。熱気や迫力が堂内に満ち溢れ感動した日々が、昨日の如く甦ってきます。大勢の人々をお迎えした両堂は、動から静へと休息するひと時ではないでしょうか。さる三月二十五日から四月二十九日の期間に執り行われました「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年」の慶讃法要にご縁をいただき、決してや「感話」という大役を仰せつかったこと―吾心のよりどころなり―と京都教区の皆様から感謝を申し上げます。

さて、親鸞聖人はどのような時代背景に仏

教の道を歩まれたのかを少し考えたいと思います。平安末期から鎌倉時代にかけては社会構造が大きく変化した時代でもあり、貴族による摂関政治から武家社会へと転じ経済事情も変わっていきます。尚且つ大火や震災、そして飢饉と疫病に苛まれ、明日をもわからぬ人達の苦悩は末法の時代とされました。そうした社会状況に法然上人は「南無阿弥陀仏」と称えるだけで誰でもが等しく救われると説かれ、親鸞聖人においては、煩惱に満ちた凡夫である私には師を信じ阿弥陀仏の慈悲を信じるほかにいと語られました。それぞれ「念仏重視」「信心重視」と言われ、思想の比較をされましたが、親鸞聖人は法然上人の教えを受けて家族をもつて暮らし、家庭を持ったが故の苦悶にも晒されました。世俗にまみれ泥中を這うような生活の中から後の浄土真宗の礎となるものを立ち上げていけるのです。

では、現代はいかがでしょう。まさにある意味で末法の世と言えるかも知れません。生産性優先の社会はそれだけで人の価値を判断し、



また成果主義においては分断と自己中心的な考え方を生み出します。かつて近江商人の先駆と言われたある経営者は、宗教に対する深い信仰心を抱き、信仰に生きた日常生活は感恩報謝の日々であり、故郷を愛し誠実と質素を旨とされました。そして、売手よし、買手よし、世間よしの「三方よしの精神」をもつて成功を収められ、そこには「おかげさま」という心根があったと言われます。しかし、こんにち「おかげさま」を忘れたことが社会を寒々としたものになっているように思えてなりません。この言葉はただ単に相手などに対する挨拶語と受け止めるのではなく、大変深く重い意味が込められていることに気付いて欲しいと思います。

私は、いのちの繋がりによっ

て与えられたいのち、人の世に人と生まれたいのちを疎かにすることなく生きぬくことが仏弟子の務めだろうと考えます。そして、親鸞聖人は深く深く考えられた書物という宝物を私たちに授けて下さいました。授かった宝物を少しでも理解し子や孫に相続しなければならぬ大きな責務が待っております。

特集 慶讃だより

湖東地区 お待ち受け大会

各地での慶讃法要の様子をお届けしています。
湖東地区で五月に行われたお待ち受け大会の様子をお伝えします。

湖東地区教化委員会委員長

近江第十組本専寺住職

平野 寛城 ひろの かんじょう

湖東地区におきましては、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年 立教開宗八百年慶讃 湖東地区 お待ち受け大会・同朋大会を二〇二三年五月二十一日（日）、滋賀県愛知郡愛荘町のハーティーセンター秦荘を会場に開催しました。

本大会を開催するに当たり、現・前地区教化委員会三役、地区同朋大会の担当当番組から現・前組長と門徒会長、そして京都教区会議長の十人で実行委員会を組織し、当日は地区教化委員会委員にもスタッフとして運営に携わっていただきました。

この大会に際しましては、親鸞聖人御誕生と立教開宗を慶讃する法要の一環であることを念頭に置き、正信偈を大切にすること、浄土真宗について改めてしっかりとらえる機会になることを願い、二部形式で開催することとしました。

第一部は、京都教区准堂衆会より湖東地区の准堂衆四名、湖南地区より一名の准堂衆に勤行を、そして湖南雅楽会に奏楽をご依頼して、荘厳な正信偈の勤行になるよう企画しま

した。

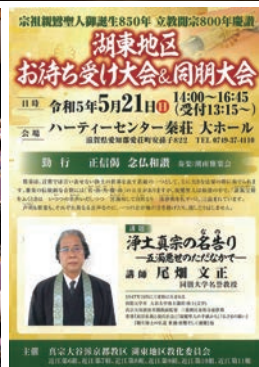
まず、開会の言葉に続き参加者全員で「真宗宗歌」を斉唱した後、湖南雅楽会による出仕楽に合わせて准堂衆と実行委員がステージ上の六字名号の前に出仕しました。続いて五名の准堂衆

の方々を中心に、正信偈草四句目下、念仏和讃五濁、選び三首（飛び三首）でお勤めしましたが、七名の楽僧の皆さまによる附楽をしていただいたことで、より荘厳な勤行となり、改めて親鸞聖人を深く偲ぶことができました。

続いて第二部は、教化委員会副委員長より湖東地区お待ち受け大会についての趣旨説明に続き、講師としてお迎えした同朋大学名誉教授の尾畑文正師から、「浄土真宗の名告りく五濁悪世のただなかで」と題してご講演をいただきました。お話の中で、浄土真宗とは一宗派の名前ではなく、浄土を真



尾畑文正師



告知リーフレット

実の宗（要であり、生きることの根本）とすることが親鸞聖人の願いであることを教えていただきました。また、五濁悪世の只中だからこそ仏さまに出会えることができるのだというところをご教授いただき、深く頷くことができました。さら

に、社会と切り離さない人間観を持つて生きることの大切さについてもご示唆いただき、あらためて浄土真宗を見つめ直し、より深く考える機会となりました。

この大会を迎えるにあたって、慶讃法要のテーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」に即した講題で育成員研修会等を開催するなど、大会に至るまでの経緯を大切に、その総決算としての大会になればという思いで開催しました。今後はこの大会を機に、さらにこのテーマを尋ねていく場を持つことを大切にしていきたいと考えています。

特集 慶讃だより

石西組 お待ち受け大会

各地での慶讃法要の様子をお届けしています。
石西組で六月に行われたお待ち受け大会の様子をお伝えします。

石西組お待ち受け大会実行委員

石西組 西念寺住職 前田慈史まえだ じし

二〇二三年六月十日、島根県益田市美都町の正萬寺を会処とし、標記の大会を石西組同朋大会と兼ねて午前・午後の二部制で開催された。当日は幸い雨も降らず八十六名の参加があり、本堂が満席になった。参詣できない方には益田市の専龍寺とのZOOM配信がなされた。石西組においてもこの三年間新型コロナウイルス感染拡大のため、あらゆる間法活動の中止や延期となっていた中で、今回の大会は久しぶりに組内の寺族・門徒が一堂に会することができた。開会式では、組長より「慶讃法要後のお待ち受け大会になったが各寺で慶讃法要をご門徒と共に勤めることがなにより大切である。本日は共に親鸞聖人の御誕生と正信偈の意味を大事に頂きたい」と挨拶された。

講師は、各地での法話やカルト問題啓発等の活動、YouTube配信もされている瓜生崇氏うりう たくみ（近江第八組 玄照寺住職）をお招きした。午前は親鸞聖人のご生涯を、午後は法然上人について歴史的な視点から事実やエピソード

ソードを交え軽妙な語り口で話され時間が過ぎるのを忘れ聴聞した。ご法話の中で、「親鸞聖人は比叡山での厳しい修行を何故されたか。それは「生死の問題」を「生死出づべき道」として捉え、二十九歳の時に法然上人に遇い、「雑行を棄てて本願に帰す（『真宗聖典』三九九頁）」、すなわち諸々の修行を棄てて、仏の願いに任せると明らかにされた」と、話された。

しかし、私の念仏には雑行を棄てることが出来ずどこかに追善供養や現世利益を求めるころがあるのも事実である。法然上人については厳しい戒律を守り観想念仏では救われる道はなく、最後に善導大師の「順彼仏願故」の言葉に出遇った。「何も変わることが出来ない真つ暗な私のころの中に仏が南無阿弥陀仏という言葉となって飛び込んで来てくれた」「私が念仏を称えたから救われるのではなく、仏が南無阿弥陀仏という救いの形となって私のところに聞こえてくる」「私が動くのではなく、仏が動く」。親鸞聖人も、法然上人の教えを受けて「念仏は私の行ではなく阿弥陀仏の行である」「阿弥陀仏を信じる信心は阿弥陀仏の法蔵菩薩の修行の姿であって、私の起こすものではない。この



ことを徹底的に深められた」と、話されたことが印象に残った。思想家の吉本隆明氏の「人間が真実をみて守っていくことは、我執に落ちていく」「人間は真実に触れることで、我執に落ちていく」という言葉を引用された。吉本氏の『最後の親鸞』の読者との対談の一部に「自分の内面に嘘をついていることと、本当に正しいこととの間に橋が架かっていないといけない」と僕は思う。

親鸞というのは橋が架かっている」という言葉に出遇った。また、ご法話で「宗教は本物と偽物は紙一重」「修行や学問をすればするほど最後には慢心が残る」とも話された。少しばかりの法に触れわかったつもりで既成概念にとらわれ、親鸞聖人の念仏の教えを本当に受け継ぎ伝えていくのか。私のころの中は真つ黒でドロドロしたものが潜んでいることを改めて痛感した。

ご法話を聴き、仏教を歴史的・思想的・多面的な視点で尋ねていく大切さと、親鸞聖人が明らかにされた「雑行を棄てて本願に帰す」という「仏の願い」を現実社会の中でどのように受け止め伝え広めていくか、今後の石西組の共通課題として捉えるご縁となった。

教務所からのお知らせ

【得度受式者】

二〇二三年 八月 四日

- ・山城第一組 徳正寺 井上 攝
- ・山城第五組 照光寺 東光 奏奈
- ・近江第一組 長善寺 真嶋 龍生
- ・近江第二組 傳久寺 武村 綾子
- ・近江第六組 本誓寺 野田 篤人
- ・近江第七組 正明寺 杉本 恵利
- ・近江第八組 照耀寺 浅野 舜
- ・石東組 善徳寺 河野 恵大

二〇二三年 八月 七日

- ・山城第五組 徳念寺 回陽 竹美
- ・近江第四組 悲願寺 出水 尋
- ・近江第五組 西應寺 奥野 優子
- ・近江第五組 西應寺 奥野 ひかり
- ・近江第七組 願長寺 寺本 恵護
- ・近江第二十五組 長順寺 河原 大

【住職任命者】

二〇二三年 八月 二十八日付

- ・近江第二組 圓通寺 井上 教真
- ・近江第七組 光浄寺 石山 裕輝
- ・近江第九組 正善寺 金華 亮
- ・出雲組 真浄寺 日野 浄信

【敬弔】

ご生前のご功勞を偲び、謹んで
哀悼の意を表します。

- ・山城第二組 了徳寺

住職 滋賀 俊正 六十一歳

二〇二三年 八月 二十七日

- ・近江第一組 立專寺

前坊守 石川 みち子 九十五歳

二〇二三年 八月 一日

〔寺院教会番号順 敬称略〕

【教務所事務休止のお知らせ】

十月四日（水）は、新教区準備委員
会事務局会のため、所員が全員
長浜教務所へ出向するため、事務
休止いたします。ご承知おきく
ださい。

○『教区だより』公開講演会

「真宗教団の中の女性たち」

【講師】見義 悦子氏（富山教区正覺寺）

【日時】十一月八日（水）

十三時三十分より

【会場】常磐会館（京都教区会館）

本紙連載の見義悦子先生をお招
きしての公開講演会です。教区
ホームページ内、出版部会のペー
ジにも詳細がごいますのでご覧
ください。【お問い合わせ】京都教
務所（担当 赤松）



[http://www.k-kyoku.net/cat/
introduction/kyoka/shuppan](http://www.k-kyoku.net/cat/introduction/kyoka/shuppan)

今年の春、中庭に蜜柑の苗木を一本
植えた。以前、境内の整備のために蜜
柑の木を抜いたのを、幼い息子がひど
く残念がったので、いつか同種の木を
植えようと約束していたからだ。

しかし、思春期の息子は既に蜜
柑への関心を失っており、私が世
話をしていた。やつと数枚の新芽
が出たと喜んでた矢先、次々に
その若葉が食われた。アゲハの幼
虫だ。迂闊だった。「本来は息子の
仕事だ」という気の緩みから、対
策を怠っていた。急ぎよ防虫ネッ
トを買い、飛来するアゲハを追
い払いながら苗木全体を覆って、蜜
柑の方は何とか事無きを得た。

けれども、幼虫の方はダメだった。同
じ柑橘系の柚の葉など色々と与えて
みたが食べてくれず、結局、十数匹が
死んだ。

ところで、例年、庭に群生する三つ

葉には、キアゲハが卵を産みに来る。私
はそれを愛おしく思い、時には幼虫に
群がるハチを追いかけて、ちよ
うどその時の私にとっては、キアゲハ
大命、三つ葉利用できる命（食料）、
ハチは不要な命（敵）なのだ。

命の序列が明確ならば、悩みは
無い。

今回右往左往したのは、思い入
れのある蜜柑の木と、美しいアゲ
ハの幼虫が、私にとって、ちょうど
同じ重さの命だったからだ。

普段、無意識に命に序列をつけ
ている自分に気付かされる。そし
て、同じ重さと思える命に出遇っ
たところで、それをすえとおつて

平等に慈しむことは困難だ。

「私にできる範囲で」という言葉に
甘えてしまいがち、今日も私は私の
都合を生きている。

（出版部会 岩永 晶子）

編集後記 The editor's note

教区だよりの編集に携わるように
なつて随分と「言葉」を意識するよう
になった。執筆者の意図を伝える為
にはどうすれば的確な言葉になるか、長時間
かけて日本語を精査する事は今までな
かった。会議中の皆様の意見が私の学

を深くしてくれる。

昔、声明の先生に「ことばを伝えて欲
しい」と言われた事がある。当時は意
味がわからなかったが、この事は『教区
だより』で「言葉を伝える」と同じ
意味を持っているのではないかと思

（出版部会 徳田 潤子）

イマダカラ

京都教区 10 月の行事予定

教区・地区・関係団体事業

2日(月)・3日(火)	坊守会 役員一泊研修会	長浜別院・長浜教務所
3日(火) 14:00～17:00	教化推進本部 新教区懇談会	教区会館
11日(水) 9:30～15:30	坊守会 基礎講座	教区会館2階 大講堂
20日(金) 16:30～18:00	仏教青年会 声明教室	教区会館

教区諸会議

2日(月) 13:30～16:30	新教区準備委員会	教区会館2階 大講堂
4日(水) 13:30～16:30	新教区準備委員会 事務局会	長浜教務所
5日(木) 13:30～16:30	教化推進本部 出版部会 (Zoom 会議)	Zoom
5日(木) 14:00～17:00	靖国問題学習会	教区会館3階 研修室
6日(金) 13:30～16:30	新教区準備委員会 教化・組織小委員会	教区会館2階 大講堂
10日(火) 14:30～18:00	教化推進本部 育成研修部会	教区会館2階 大講堂
11日(水) 13:30～16:30	新教区準備委員会 特区小委員会	長浜教務所
13日(金) 13:30～16:30	新教区準備委員会 財務小委員会	教区会館2階 大講堂
13日(金) 16:00～18:00	仏教青年会 会議	教区会館2階 大講堂
16日(月) 16:00～18:00	准堂衆会	教区会館3階 研修室
17日(火) 13:00～16:00	部落差別問題に関する改編協議会	長浜教務所
17日(火) 14:00～16:30	両教区 坊守会懇談会	長浜教務所
19日(木) 13:30～17:00	新教区準備委員会 教化推進本部 調整協議会	教区会館2階 大講堂
23日(月) 15:00～17:00	教誨師会 総会	教区会館2階 大講堂
24日(火) 13:30～16:30	両教区 推進員連絡協議会懇談会	教区会館2階 大講堂
26日(木) 13:30～16:30	教化推進本部 共同教化部会 (仮称) (Zoom 会議)	Zoom

教区別院事業

5日(木) 13:00～14:00	赤野井 定例法要 (教如上人) 法話 輪番 中川眞 師	赤野井別院
6日(金) 14:00～16:00	伏見 声明作法講座 浅井誠 師 (山城 第3組 皆演寺)	伏見別院
10日(火) 14:00～16:00	伏見 同朋会	伏見別院
12日(木) 13:30～15:30	山科 同朋の会 法話 赤松崇麿 師 (教区駐在教導)	山科別院
14日(土) 14:00～16:00	大津 報恩講 速夜 法話 輪番 篠岡誓法 師	大津別院
15日(日) 10:00～12:00	大津 報恩講 日中 法話 輪番 篠岡誓法 師	大津別院
25日(水) 14:00～16:00	山科 定例法話 兼 八代講 法話 平原晃宗 師 (山城 第5組 正蓮寺)	山科別院
26日(木) 13:30～16:00	赤野井 報恩講 初速夜 法話 服部精文 師 (近江 第2組 安隨寺) 引き続 ぎ初夜 御伝鈔	赤野井別院
27日(金) 8:00～16:00	赤野井 報恩講 晨朝 日中 速夜 法話 楠信生 師 (前教学研究所長) 引き続 ぎ初夜 御伝鈔	赤野井別院
27日(金) 14:00～16:00	伏見 ご命日のつどい 法話 松下暢樹 師 (丹波 第2組 延福寺)	伏見別院
28日(土) 8:00～12:00	赤野井 報恩講 晨朝 満日中 法話 楠信生 師 (前教学研究所長)	赤野井別院

教務所閉所予定のお知らせ

10月4日(水) ※新教区準備委員会事務局会のため 詳しくは7ページ「教務所からのお知らせ」をご覧ください

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌
『教区だより』第401号
[発行人] 篠岡誓法(真宗大谷派京都教務所長)
[発行所] 真宗大谷派京都教務所
〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入
Tel:075(351)5260 Fax:075(351)5256

【表紙の写真】御影堂門 彫刻(石東組 善徳寺 河野恵嗣)
発行日 2023 (令和5) 年 10 月 1 日
メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派 京都教区 Webサイト
https://www.k-kyoku.net

京都教務所

検索

